1　千住宿

武蔵国豊島郡・足立郡　二里八町

「関屋の里　牛田の辺（ほとり）をいふ。澄月（ちょうげつ）“歌枕”には武蔵国に入れたり」（江戸名所図会）牛田は隅田川に面した千住関屋町・曙町一帯で、鎌倉初期に江戸重長が関を設けたところという。「嘉暦中（1326～29）新井政次なるもの千寿観音像を荒川より得るを以て名（なず）くとも、足利義政の妾千寿の生地なるを以て名くとも云ふ」（東京案内）「千住五ヶ町（1丁目から5丁目まで）、掃部宿（かもんしゅく）、橋戸町、河原町、小塚原町、中村町。右之分此宿町組にて、惣名（そうみょう）千住宿と相唱（あいとなう）」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）

千住宿は、寛永2年（1625）に五街道の整備によって日光・奥州両街道の初宿に指定され、最初の千住宿は本宿、その後追加され掃部宿・河原町・橋戸町は新宿、さらに小塚原町・中村町は南宿（下宿）と呼ばれ、江戸四宿の1つとされた。南千住から荒川土手まで2.4kmありました。水戸街道はここから分岐していた。

天保14年（1843）の『日光道中宿村大概帳』によれば、宿内総家数2,370軒（本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠55軒）、人口は9,456人（男5005人、女4551人）、駄賃・賃銭は荷物1駄・乗掛荷人共101文、軽尻馬1疋64文、人足1人49文であった。江戸四宿最大の宿場町で、市場がつくられたり、宿場の外れには小塚原刑場が設置された。

千住絵馬屋

⑪千住絵馬屋（吉田家）

吉田家は、8代続いた絵馬屋です。千住宿内や近郊農村の人々に絵馬、地口行灯提灯、ビラの揮毫を生業としていました。現在は、眼病平癒や学業成就を願う絵馬を作っています。製作者吉田晃子さんは、足立区登録無形民俗文化財保持者です。

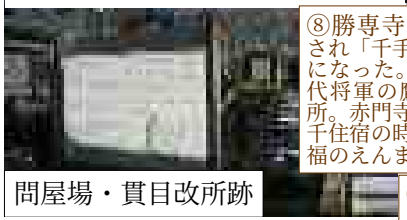
槍かけだんご

⑫槍かけだんご　水戸光圀公が千住宿を通っていたとき、槍を立てかけた松「槍かけの松」から名前をつけた。

千住本陣跡とその周辺案内

⑨千住宿本陣跡、明治天皇行在所跡、千住見番跡、見番横町、丁目境の筋違千　住宿で最も繁盛した旅籠中田屋があった。本陣は敷地361坪、建坪120、間口9間半、奥行38間。

千住宿本陣跡



問屋場・貫目改所跡

③千住宿問屋場跡　貫目改所

寛保三年（1743）に貫目改め所が設けられ荷物の重量検査のための秤が備えられました。馬に積める荷物には制限があり、運賃が定められていました。

貫目改め所は宇都宮までありませんでしたので、重い荷物を制限内と認めてもらえるよう、賄賂が飛び交ったという話があります。「千住問屋場貫目改め所跡」の碑がある。

高札場跡

千住本宿の江戸側入口にあたる。

①源長寺　慶長15年（1610年）石出掃部亮実胤により創建。将軍鷹狩りの御膳処となった。文化13年（1816）日光門主の日光社参の時脇本陣御用を勤めたり、嘉永3年（1850）勅使下向のときの脇本陣として使われた格式の高い寺院です。掃部亮の墓がある。三遊亭円朝寄進の大山阿降里行者心静法尼墓前の燈籠がある。（上野下野道の記）

⑯爺ヶ茶屋跡

「此宿（千住宿）出はつれ左側に爺ヶ茶屋といふ有之」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）「特廟御誉の茶釜は、宿の北の入口西側にあり今は床の上に注連を張り置てね茶釜茶屋といふ」（日光駅程見聞雑記）「むかし此店の茶釜の光沢（ひかり）の殊に勝れたりしを重き御感賞にあつかりしより此茶銚竟（ついで）に名物となりて、其名さへ世に光事とはなりぬ」（江戸名所図会）特廟とは将軍吉宗のことで“名をのこす爺の茶釜やてるかゞみ”

千住絵馬屋

⑪千住絵馬屋（吉田家）

吉田家は、8代続いた絵馬屋です。千住宿内や近郊農村の人々に絵馬、地口行灯提灯、ビラの揮毫を生業としていました。現在は、眼病平癒や学業成就を願う絵馬を作っています。製作者吉田晃子さんは、足立区登録無形民俗文化財保持者です。

槍かけだんご

⑫槍かけだんご　水戸光圀公が千住宿を通っていたとき、槍を立てかけた松「槍かけの松」から名前をつけた。

千住本陣跡とその周辺案内

⑨千住宿本陣跡、明治天皇行在所跡、千住見番跡、見番横町、丁目境の筋違千　住宿で最も繁盛した旅籠中田屋があった。本陣は敷地361坪、建坪120、間口9間半、奥行38間。

千住宿本陣跡

問屋場・貫目改所跡

③千住宿問屋場跡　貫目改所

寛保三年（1743）に貫目改め所が設けられ荷物の重量検査のための秤が備えられました。馬に積める荷物には制限があり、運賃が定められていました。

貫目改め所は宇都宮までありませんでしたので、重い荷物を制限内と認めてもらえるよう、賄賂が飛び交ったという話があります。「千住問屋場貫目改め所跡」の碑がある。

高札場跡

千住本宿の江戸側入口にあたる。

①源長寺　慶長15年（1610年）石出掃部亮実胤により創建。将軍鷹狩りの御膳処となった。文化13年（1816）日光門主の日光社参の時脇本陣御用を勤めたり、嘉永3年（1850）勅使下向のときの脇本陣として使われた格式の高い寺院です。掃部亮の墓がある。三遊亭円朝寄進の大山阿降里行者心静法尼墓前の燈籠がある。（上野下野道の記）

⑤不動院　正慶1年（1332）創建の古刹。飯盛女の供養で「万延元年（1860年）九月大塚屋」と刻まれ、天保飢饉死者も葬られている。官軍に捕らわれた彰義隊士の墓がある。

④慈眼寺　江戸城北方鎮護の寺で葵紋を許され、将軍日光社参の休憩所になった。境内に火消しの親分、新門辰五郎の供養塔がある。

⑮安養院　地蔵を小石で打つて祈願すれば霊験あらたかだというかんかん地蔵は北条時頼建立。千住元町にあったがこの地に再建。

⑭名倉医院　明和年間（1764～1771）江戸時代から昭和中期までの建物長屋門が残ってる。昔名倉医院にかかる患者は近くの金町屋（現在の平尾医院）、万屋、成田屋などに泊まって通った。

名倉医院

⑬水戸街道　「水戸佐倉道　新宿江壱里拾九町」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）「槍かけの松」があった清寺がある。昭和5年（1930）の荒川放水路が完成し小菅までの道は消滅した。出発地の道標は足立区郷土館にある。次宿は葛飾区新宿。

横山家住宅

⑩横山家　伝馬屋敷の面影を今に伝える商家。初代は呉服屋であったが、2代目から地漉紙問屋となり、屋号を松屋といった。柱には幕府彰義隊が敗走するときにつけた刀傷がある。

千住高札場由来

⑦金蔵寺

「南無阿弥陀仏」と刻まれた飯盛女の供養塔と、天保の飢饉天保8年（1837）の死者を供養する無縁塔がある。側面には、金蔵寺、勝専寺、慈照寺、不動院に埋葬したと記されている。

⑥森鴎外旧宅　森鴎外の文筆活動は、明治14年9月17日（1881）付『讀賣新聞』に「千住　森林太郎」の本名で寄稿欄に一文を寄せたのがはじまり。陸軍医に任官し、明治27年（1894）から、ドイツに留学するまで、ここから三宅坂の陸軍病院に通っていた。

一里塚跡

2　千住一里塚

「木立榎。但、右之塚計千住宿地内」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）天保年間（1830～1844）ころから宿内のために片方しかなかった。日本橋から2里の一里塚で、榎が植えられ、『是より日本橋に二里八丁』の道標があった。現在交差点左に標柱がある。

5　千住宿～草加宿

東京都足立区

千住仲町　～　千住新橋

（歩行距離　2495m　30分）

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/

JZE00512@nifty.ne.jp